

史本

亦五六
雜七八

5

1

1

5



支本和評抄卷第廿五

雜部七

題

浦

付塩電

濱

湊

浦

百首詩哥

順徳院御製



らきす 那人 ^{あま} 今をみれば ^{あま} かな ^{あま} 心 ^{あま} 乃 ^{あま} 神 ^{あま} 妙 ^{あま} 哉 ^{あま}

六帖題少祢

持僧正之朝

海 ^{あま} 之 ^{あま} 志 ^{あま} の ^{あま} 三 ^{あま} 子 ^{あま} 子 ^{あま} 子 ^{あま} 少 ^{あま} 祢 ^{あま} の ^{あま} う ^{あま} 心 ^{あま} 乃 ^{あま} 神 ^{あま} 妙 ^{あま} 哉 ^{あま}

月

之後朝 ^{あま} 於 ^{あま} 御 ^{あま} 製 ^{あま}

心 ^{あま} 乃 ^{あま} 神 ^{あま} 妙 ^{あま} 哉 ^{あま} 心 ^{あま} 乃 ^{あま} 神 ^{あま} 妙 ^{あま} 哉 ^{あま} 心 ^{あま} 乃 ^{あま} 神 ^{あま} 妙 ^{あま} 哉 ^{あま}

建保三年右示百首詩哥

順徳院御製

順徳院御製

卯三

刊行正業上女衛内侍
願御了

かみくはむすの海あまのうらめすしまの海うらめ

月

後三位花家

かみくはむすの海あまのうらめすしまの海うらめ

月

兵衛内侍

かみくはむすの海あまのうらめすしまの海うらめ

野

法入志

井

月夜のいろとさよのこけ見し夜のいろとさよのこけ見し

東尋中

橋廣華

かみくはむすの海あまのうらめすしまの海うらめ

心

支是は入道言女

かみくはむすの海あまのうらめすしまの海うらめ

志

法橋頭照

かみくはむすの海あまのうらめすしまの海うらめ

題

賀茂守保

かみくはむすの海あまのうらめすしまの海うらめ

月

後入志

かみくはむすの海あまのうらめすしまの海うらめ

建長八年百首の合

後二位の家

かみくはむすの海あまのうらめすしまの海うらめ

あまのうらめすしまの海うらめ

後頼朝

かみくはむすの海あまのうらめすしまの海うらめ

かみくはむすの海あまのうらめすしまの海うらめ

伊勢

福倉右木

五合
わたりしよりけりしるる

海邊

源克行

波打つたわらしこそ海にわたる
舟路次記を遠に國并り
はまたいつくは著りて一日
あはれなるものなりし
とていふは海の中なる人
こころをねがひたりしるる

題不記

伊勢

源克行

奇林良材

神代世のうらまはし

九条稚忠

神代世のうらまはし

承保三年十一月

若下会

いかに花す

重之

ことこのへに

讀人不知

家集

氏部

氏部

のいゝものゝうへにひらひらとちかちか

六帖題しり

西館のあはれ

あつさゆいそくしりしるの本あつさゆいそく

題不知あつさゆいそく

後人不知

なひらひらとちかちか

家集あつさゆいそく

長明

浪かたまたまの神あつさゆいそく

中務の親王あつさゆいそく

特

道因法師

ふらの北野田のすうふもか

題不知あつさゆいそく

後人不知

牡丹のちのうらものころあつさゆいそく

千五百番奇合

森道法師

あつさゆいそく

題不知

休感法師

をののちのうらものころあつさゆいそく

月

讀人不知

天竺大嘗會あつさゆいそく

りゝまらしらの海あつさゆいそく

永保三年大嘗會あつさゆいそく

月

すうさゆいそく

弘安元年百首林奇

近江書屋の権従

法印定因

喉をすくさくせむはむをせよ 枯草を多くたぬかたをせ
 家集じうあらん人ありきり類あともせよ

枯草

つぎあーちとせのうたえうひるふこととの海のついで
 才三親し家十又首寺

後二位家隆

あつらえらばうこのうらたぬあやあやまのあつら
 百首正寺 とみうら 順徳院を製 とみうら 人

あつらえらばうこのうらたぬあやあやまのあつら
 建長八年百首正の合前大納言伴平

あつらえらばうこのうらたぬあやあやまのあつら
 ともあつらえらばうこのうらたぬあやあやまのあつら

正治三年百首

正三位經中

あつらえらばうこのうらたぬあやあやまのあつら
 承元三年長尾社 合海遍律雁

権少僧都自表

あつらえらばうこのうらたぬあやあやまのあつら
 題不知 源季廣

あつらえらばうこのうらたぬあやあやまのあつら
 若くはうらち中 後徳大寺大僧

あつらえらばうこのうらたぬあやあやまのあつら
 若くはうらち中

あつらえらばうこのうらたぬあやあやまのあつら

あつらえらばうこのうらたぬあやあやまのあつら
 若くはうらち中

天元元年 粟田公 命喜海朔

月

三三
六三
八月廿二日 諸人 諸人 諸人 諸人 諸人

八月廿三日 諸人 諸人 諸人 諸人 諸人

八月廿四日 諸人 諸人 諸人 諸人 諸人

八月廿五日 諸人 諸人 諸人 諸人 諸人

八月廿六日 諸人 諸人 諸人 諸人 諸人

諸人 諸人 諸人 諸人 諸人

八月廿七日 諸人 諸人 諸人 諸人 諸人
舟

八月廿八日 諸人 諸人 諸人 諸人 諸人

八月廿九日 諸人 諸人 諸人 諸人 諸人

志清 氏
後菜入道用白

八月三十日 諸人 諸人 諸人 諸人 諸人

風連 氏
積人 不知

八月三十一日 諸人 諸人 諸人 諸人 諸人

家集 氏
好忠

八月一日 諸人 諸人 諸人 諸人 諸人

八月二日 諸人 諸人 諸人 諸人 諸人

八月三日 諸人 諸人 諸人 諸人 諸人

八月四日 諸人 諸人 諸人 諸人 諸人

八月五日 諸人 諸人 諸人 諸人 諸人

寶治二年 百有片寄

後醍醐天皇御製

約目さし加しめし何きしあしきしをいそむるまの船

角部振母勝同
受入振母の元種集すは
に侍りしつすのつらむちのつらむち周防の船ありしむまやふしあまて うすの浦

ねむいふまのの船のいふまよふあまの海にきか

建保三年若お百着はりの

鹿浦常陸 順徳院御製

あつちもあつちをくりあつちまあつちの海におまの

円 一か家 正三位知家 いす火
のいす火

あつちもあつちをくりあつちまあつちの海におまの

海海も霞 後九条内大臣

あつちの海海あまのりきりてあつちの海海あまのりき
建長八年家百着はりの

円

あつちの海海あまのりきりてあつちの海海あまのりき

永久二年十月廿二日宣旨家百着

御震 債人

あつちの海海あまのりきりてあつちの海海あまのりき

預仲のいふけら住古社寺合執 まの浦
丹後

保惠昌

あつちの海海あまのりきりてあつちの海海あまのりき

神祇伯頭件 いす火

あつちの海海あまのりきりてあつちの海海あまのりき

保惠昌 債人

あつちの海海あまのりきりてあつちの海海あまのりき

業部百五
首腹

光俊朝臣

まもりかきよこころをこころらりりまらふ人なまら
家集並面裏 指中納言長方あま

いづこころにこれゆきまじりあはれおぼえりてあは
題くす 玉浦終符 續人志くは おま

りうらふいもあはれいもあはれいもあはれいもあはれ
月玉浦の浦 肥前式部 月くまのい 人なまら

松浦河内守まらふこころをこころらりりまらふ人な
百首くす 光俊朝臣

とこれよこころの海内やまらふこころらりりまらふ人
題くす 續人志くは

まらふこころなまらふこころなまらふこころなまらふ
人なまらふ

角麻 藤原五作藤原 笠金村藤原

あつこころのたしはりあはれいもあはれいもあはれ
名あつこころのたしはりあはれいもあはれいもあはれ

海利蔵 藤原五作藤原 藤原五作藤原 藤原五作藤原

都田尻 藤原五作藤原 藤原五作藤原 藤原五作藤原

朝丹波 藤原五作藤原 藤原五作藤原 藤原五作藤原

千五丹波 藤原五作藤原 藤原五作藤原 藤原五作藤原

ね丹波 藤原五作藤原 藤原五作藤原 藤原五作藤原

伊豫歌詠歌

才三の又

物... 田原

正治二年百首 後二佐也

あさか... 後

題... 亦人

寺... 好忠

家集

田子... 同

同

た... 同

仁和二年二月... 前中納言仲心

あ... 前中納言仲心

あ... 前中納言仲心

山三河鴨長明
水...
あ...
あ...

浄集 是金甚も入道三女

毎... 中納言持心

布... 中納言持心

う... 中納言持心

題... 中納言持心

た... 中納言持心

六... 中納言持心

た... 中納言持心

百... 中納言持心

あ... 中納言持心

家集 躬恒

あ... 躬恒

あ... 躬恒

分
あ...
あ...
あ...

^{現集} 陰衣立よりそのまろけすし 如子神の海之海

家集 神のこ 藤園 大納言 神信和泉部

家集 和泉式部和泉部

神のうにこりやとさきりきてあきまゝにさあ

月 伊勢

そこのうにけりるたまにさるおのひにあはる

月 中務

まきりつるこみかみ神の海よりおのひとあはる

まきりつるこみかみ神の海よりおのひとあはる

信守定範

まきりつるこみかみ神の海よりおのひとあはる

寶治三年百首

後九条内大臣

見りしあはるこみかみ神の海よりおのひとあはる

題不知

狭人不知 娘子

あはるこみかみ神の海よりおのひとあはる

月 大伴身子

おのひ神の海よりおのひとあはる

卿集 慈徳和尚

おのひ神の海よりおのひとあはる

題不知 狭人不知

すまのあつみの海よりおのひとあはる

家集中 信賴朝臣

余西賀部

かきあつみの海よりおのひとあはる

夜集

神の浦

考許以純海 此伊也

万五安未 藤知乃曾許 比能守 安未 我其 狭人 彼多尔 改神 良年 比等 渡左 称安 良自

非乃命

信守の浦 松原

信守の浦

信守

信守

五十

酢鐵治 年夏 身乃浦 亦 依 依

信賴朝臣

不念君

しきとまのめいしすくはとまのうらたて

貝

たの浦

作珠

まてまのいさこの浦まてらうらひのりまのあはれ

六百番奇合守煙惠

法橋頭船

まのうらぬくす煙まのミウらとてやま

建七八年百首三合 鷹司院師

ゆきまのいさやせよとまのうらむす

惠三の中

法橋頭船

いそまつむるこのあまのこころ

題字

福丸

あふんそていさこのうらまうらうらひのまをいひよを

題不知

後人志

むらりわう神乃ひまらわらうらや

天仁三年三月師時三合守兼惠

藤原教隆

あしきはまのひらけし

保安二年九月内大臣也三合惠

後頼朝

くねまのいさこのあはれ

家集

和泉式部

あふんそていさこのあはれ

相模

あふんそていさこのあはれ

今昔の... 後人... 信実... 海浦... 氏林... 家... 氏林... 家... 氏林... 家...

卷七七出

新古...

信実... 海浦... 氏林... 家... 氏林... 家... 氏林... 家...

信実...

信実...

卷七七出

天禄三年... 氏林... 家... 氏林... 家... 氏林... 家...

氏林... 家... 氏林... 家... 氏林... 家...

五十一

氏林... 家... 氏林... 家... 氏林... 家...

五十二

氏林... 家... 氏林... 家... 氏林... 家...

五十三

氏林... 家... 氏林... 家... 氏林... 家...

氏林...

氏林...

氏林... 家... 氏林... 家... 氏林... 家...

氏林...

氏林...

氏林...

氏林... 家... 氏林... 家... 氏林... 家...

中納言國信

河内院吉村百首

九月...

貞應三年...

氏林

吹子好る...

家集 長柄 橋本 又 出江 相長 幸吉

玉原...

寛元元年十禪所寺合

大納言為氏

河津...

歌文...

家集...

西行上人

千五百首...

無産

多利乃あつていかにかたむすべしと云ふ
家集るるを 國事 大宰大貳高遠 御

さしけのうけ持てあつていかにかたむすべしと云ふ
あまされるるの海と 喜 頭仲朝也

万十五 奉 野一 法蓮南 人志 法蓮南
心 武庫花 の 伊里江 入 林 入 羽具父 入 毛流 入 仗表 入 半波 入 奈禮 入 百非 入 全 入 奴 入 侍 入

万十五 奉 野一 法蓮南 人志 法蓮南
積人志 法蓮南

安中 地 長 伎 許 藝 出 未 久 禮 安 年 故 能 宇 良 結 之 保 非 結 十 多 雨 多 三 我 許 願 也

平河院古時百有 持大納言云云
安中二年九月廣田社之合海上眺也
判七後成也 好子内親王七半納言

心 三 位 知 家 心
實治二之首有海眺也

万十二 奉 室 五 浦 之 瑞 明 之 埼 着 鳴 治 之 越 辰 尔 所 治 人 願 也

全善性
御
原

寶治三年百首

信之

ひらのやあひのこまやのなまきよからりよひく磯の松

六帖題

衣笠内大臣

このよはりてはかたよひむらのはまあつひよとらつ

百十首の中

権僧正

舟人

ひらのういじやあはれまをなまきよはせのこなほはね

たちまのくあまらけろみらよまよあまらけ

子あまらけ

能宣朝臣

立ちまのくあまらけろみらよまよあまらけ

野三

承香殿女侍

よまにまらけろみらよまよあまらけ

浦

心三位の家

ひらのやあひのこまやのなまきよからりよひく磯の松
ひらのういじやあはれまをなまきよはせのこなほはね
たちまのくあまらけろみらよまよあまらけ

おぼろ

あゝあすたむのうらたあはれまをなまきよからりよひく磯の松

建徳百首

俊頼朝臣

あゝあすたむのうらたあはれまをなまきよからりよひく磯の松

ままはた入道二平親のまをなまきよからりよひく磯の松

如砥は所

あゝあすたむのうらたあはれまをなまきよからりよひく磯の松

建仁八年百首三合

たははぬ長

あゝあすたむのうらたあはれまをなまきよからりよひく磯の松

家集

宗承文下野

あゝあすたむのうらたあはれまをなまきよからりよひく磯の松

題一

積人

あまのついでにあらうして 水島 海人の海に

家集

後頼朝臣

あまのついでにあらうして 水島 海人の海に

建公の年家言首奇会

後九条内大臣

葦小乃野坂乃浦子 のり ねのまき

因信の家言会對泉述懐 のり 子

後頼朝臣

あまのついでにあらうして 水島 海人の海に

あまのついでにあらうして 水島 海人の海に

天平六年正月廿五日 のり 子

田島福丸

あまのついでにあらうして 水島 海人の海に

建保三年若水百首 のり 子

あまのついでにあらうして 水島 海人の海に

家集 如教法師

あまのついでにあらうして 水島 海人の海に

題不知 知賢 のり 子

あまのついでにあらうして 水島 海人の海に

月 後人の志

あまのついでにあらうして 水島 海人の海に

家集 元真 のり 子

あまのついでにあらうして 水島 海人の海に

長久元年六月良子内親 のり 子

聖書

しらこらわらせさしんりてのやまのうらまはるま

弘長元年百首

後九条内大臣

足るのさだまのうらまはるま

題 すし 清い文浦

後人不知

大少のうらまはるま 元深麻藝 此麻里布此海より

建長八年百首の合

支後御片

くはさくらぬまりぬの海のうらまはるま

推 まの浦

後人不知

考 不意者 尾一藤川管

月

月

井 圓形の浦のすもももるおと 又播戸 又播戸 又播戸

題 松浦のうらまはるま

月

考 松浦のうらまはるま

家集

基後

皮のうらまはるま 又播戸 又播戸 又播戸

寛元元年十律師の合浦松風

支後御片

ねも吹極風むと 真若 紅伊

後人不知

ろーのうらまはるま 松帆 松帆

長寺

笠金村

るま 松帆 松帆

あ 松帆 松帆

井 松帆 松帆

千首百首

氏部と為家

あらしの海にわたりて焼深かきし人さしを柴

あらしの海にわたりて焼深かきし人さしを柴

あらしの海にわたりて焼深かきし人さしを柴

あらしの海にわたりて焼深かきし人さしを柴

あらしの海にわたりて焼深かきし人さしを柴

あらしの海にわたりて焼深かきし人さしを柴

あらしの海にわたりて焼深かきし人さしを柴

あらしの海にわたりて焼深かきし人さしを柴

あらしの海にわたりて焼深かきし人さしを柴

あらしの海にわたりて焼深かきし人さしを柴

あらしの海にわたりて焼深かきし人さしを柴

後三任の御代
千首百首
伊勢の御代

家集

廬主

あらしの海にわたりて焼深かきし人さしを柴

あらしの海にわたりて焼深かきし人さしを柴

あらしの海にわたりて焼深かきし人さしを柴

あらしの海にわたりて焼深かきし人さしを柴

あらしの海にわたりて焼深かきし人さしを柴

建保三年壬午百首百首

順徳院法御衣

あらしの海にわたりて焼深かきし人さしを柴

あらしの海にわたりて焼深かきし人さしを柴

あらしの海にわたりて焼深かきし人さしを柴

あらしの海にわたりて焼深かきし人さしを柴

あらしの海にわたりて焼深かきし人さしを柴

あらしの海にわたりて焼深かきし人さしを柴

あらしの海にわたりて焼深かきし人さしを柴

あらしの海にわたりて焼深かきし人さしを柴

あらしの海にわたりて焼深かきし人さしを柴

あらしの海にわたりて焼深かきし人さしを柴

あらしの海にわたりて焼深かきし人さしを柴

夢のうらやまの志をよみてはめくたふ人今世に
題をくく その浦舟女 積人不能 浦

六帖 旅の末 江 藤江浦 駕馬

玉津島から之をたねた松竹の影をかくる影のさ
権泊待月 源仲心

名52 もまたさるあゝのこゝろ舟こぎの月にてくさまりを
夜室の内大住

重東 鑑 けささる少らぬのこゝろ舟こぎの月にてくさまりを

新三つ 永末の年麗京殿女侍音合落 し女子

相模 ふとる落後拾 葉の青葉

五言 協和 藤原内親 主君の ありけり ありけり はらにのけり 止まてし 侍のいひ ありけり ありけり ありけり

五言 協和 藤原内親 主君の ありけり ありけり ありけり

百首 氏部の花乞

はらぬのこゝろ のこゝろ けささる少らぬのこゝろ 舟こぎの月にてくさまりを

家集 西行上人

波のよ衣の浦の袖貝と見すさよ舟こぎの月にてくさまり

百首 九条内大臣

立ちぬあまの衣を のこゝろ けささる少らぬのこゝろ 舟こぎの月にてくさまり

家集 源仲心

松竹の影をかくる影のさ のこゝろ 権泊待月

題志 人丸

あゝのこゝろ のこゝろ 舟こぎの月にてくさまりを

伊勢国 のこゝろ 舟こぎの月にてくさまりを

五言 協和 藤原内親 主君の ありけり

五言 協和 藤原内親 主君の ありけり

家集わ〜〜〜

新刊

傳杉紙片

志あやうなるひの〜

題一々

漢人毛

下三

の刊

昔三

元徳天皇百後若水は障子のぬえ浦

慈徳和尙

秋のより月ゆえ方々名を言まわ〜

久安百着

河やの浦

白大石言大ま梅枝心

新報

相澤

後鳥羽後鳥羽

草履浦

後鳥羽後鳥羽

わいほりすり〜

小野社百着川元尾張

采女二年法橋寺あはまの浦

琳仁法師

刀をもちあ〜

題一々

燈奉行

家集

前大納言基良心

建長八年百着あまの浦合意司院師

ふ〜

題一々

あまの浦

後人毛

うらなふは... 海は... 家集 ありまの浦

家集 ありまの浦

廬主

あけあけ... 月 ありまの浦 恒位家 ありまの浦

月 ありまの浦

恒位家 ありまの浦

あけあけ... 六帖題 ありまの浦 氏名 ありまの浦

六帖題 ありまの浦

氏名 ありまの浦

いそは... 藤 ありまの浦 指律師 ありまの浦

藤 ありまの浦

指律師 ありまの浦

まの... 慈母 ありまの浦 法戸 ありまの浦

慈母 ありまの浦

法戸 ありまの浦

あつと... 題 ありまの浦 積人 ありまの浦

題 ありまの浦

積人 ありまの浦

下七本... 見者海人之燦火... 建永元年和玉の... 大苑 ありまの浦

建永元年和玉の... ありまの浦

大苑 ありまの浦

寛元元年十... 松風 ありまの浦

寛元元年十... ありまの浦

松風 ありまの浦

おき... 積人 ありまの浦

積人 ありまの浦

弘安三年... 安和門院 ありまの浦

弘安三年... ありまの浦

安和門院 ありまの浦

まの... 子

題不知 丹後ノ 神祇伯頭仲心

丹後守のこころ 丹後又伊勢 祐奉

祐奉家集をよむとてあまのこころ 丹後又伊勢 續人志

延保三年若小首僧正行意

くまのこころ 丹後又伊勢 後二位家隆 丹後

丹後のこころ 丹後又伊勢

けきの人は 丹後又伊勢 鴨長明

六帖三帖 丹後又伊勢 蜀不知 続人不知

月 丹後又伊勢

夜笠内大臣

見ばのこころ 丹後又伊勢 神祇伯頭仲心

前中納言定家

春の夕 丹後又伊勢

永久元年百首水海 神祇伯頭仲心

あはれこゝろをばあはれにわらふにありてあはれをすく人なり
野一らす あはれこゝろをばあはれにわらふにありてあはれをすく人なり 高市美人

万 けりあはれこゝろをばあはれにわらふにありてあはれをすく人なり
建在公年百首古今 あはれこゝろをばあはれにわらふにありてあはれをすく人なり 長生内大臣

如き人さへいひまじりたるにあはれをすく人なり
津集樹 あはれこゝろをばあはれにわらふにありてあはれをすく人なり 中務の女に徳会

志のこゝろをばあはれにわらふにありてあはれをすく人なり
う あはれこゝろをばあはれにわらふにありてあはれをすく人なり 疾人不知

風 あはれこゝろをばあはれにわらふにありてあはれをすく人なり 家集
西行上人

家集 あはれこゝろをばあはれにわらふにありてあはれをすく人なり 結句は師

ま あはれこゝろをばあはれにわらふにありてあはれをすく人なり 奥列とわらふにありてあはれをすく人なり

ま あはれこゝろをばあはれにわらふにありてあはれをすく人なり 題 あはれこゝろをばあはれにわらふにありてあはれをすく人なり 田邊福丸

ま あはれこゝろをばあはれにわらふにありてあはれをすく人なり 長哥 あはれこゝろをばあはれにわらふにありてあはれをすく人なり 月

ま あはれこゝろをばあはれにわらふにありてあはれをすく人なり 舟 あはれこゝろをばあはれにわらふにありてあはれをすく人なり 舟

ま あはれこゝろをばあはれにわらふにありてあはれをすく人なり 舟 あはれこゝろをばあはれにわらふにありてあはれをすく人なり 舟

ま あはれこゝろをばあはれにわらふにありてあはれをすく人なり 舟 あはれこゝろをばあはれにわらふにありてあはれをすく人なり 舟

ま あはれこゝろをばあはれにわらふにありてあはれをすく人なり 舟 あはれこゝろをばあはれにわらふにありてあはれをすく人なり 舟

多入世の文をみよしむるに人を知るは海に
は金もとも入道歌しむる平首浦中殿

極つておかしきことつてふらんよめたるは若くやん
貞應元年 岡居百首中首

支那書古入道橋政
建曆二年 仙洞中首

兼中納言定家
好忠
三百六十首中

五風早 題
之三種乃浦廻平橋
兼中納言定家
信文納言

百首中首
後鳥羽院御製

家集
隆祐朝臣
建長七年 顯朝の家千首中

源仲遠
若水寺
心三位為主人

ねを乃々しむるに
月

貞應二年六月
百首海邊月

住吉社廿首
後二位家隆

家集
後杉朝臣

舟
債人不知

乃る乃る志はら
乃る乃る志はら

雑
古元

堂金基寺入道

河院持成廿首

後三位行純

宿坊天正院若宗

女名

後成

如教法師

前中納言俊光

永仁大尊會

後鳥羽院序製

志の海や

文
古元

文
古元

あふまゝにやまゝなるまゝにほめてくつらまゝ

百十二
題一す

志のあつた破なり御多事テハカキテのなほきてテハカキテするまゝ

同海部 同名 同名

幸次百歌
百歌百歌

坊院正時百首志カレ浦 指大納言公実

志氣備前志の後のまゝに志三三ははれしものなるやあはれ舟

救河三志カレ浦 讀人不知志三三

志のあつたまゝに志三三舟なるに志三三あはれ舟なるに志三三

題不知 同

志の浦志三三清志三三の舟志三三なるに志三三あはれ舟なるに志三三

名不志三三同志三三

杖葉 (の刊)

いまのまゝに志三三なるに志三三あはれ舟なるに志三三

建永五年志三三の今志三三 雅志

ねむらふなるまゝに志三三あはれ舟なるに志三三

志のあつたまゝに志三三ははれしものなるやあはれ舟

志葉志三三 素堂法師

志のあつたまゝに志三三ははれしものなるやあはれ舟

後志三三九葉肉大指

志のあつたまゝに志三三ははれしものなるやあはれ舟

千五百首志三三の今志三三 弟三の女

志のあつたまゝに志三三ははれしものなるやあはれ舟

題不知 小年

考 見しもの たりし使のわ ちたつとと ますすて 志法すの 海島 今都指榜

家集海法心 指中納言長方

おまのまのこころ ますすて とうまのまのこころ 志法

後二位家隆心

ふまのねまのこころ ますすて 志法すの 海島

月 常陸 克俊朝臣

あまのこころ ますすて 志法すの 海島

このころ 麻呂社 ますすて 志法すの 海島

村の浦のこころ ますすて 志法すの 海島

ろのこころ ますすて 志法すの 海島

ふまのこころ ますすて 志法すの 海島

いふ 知りたれ いたる け 貴とて

久安百有 前大納言隆季心

あひますすて 志法すの 海島

建保三年 若小百有 志法すの 海島

順徳院御製

ふまのこころ ますすて 志法すの 海島

寛治天皇 後若小百有 志法すの 海島

大納言有家心

あひますすて 志法すの 海島

正三位家衡心

あひますすて 志法すの 海島

百有百有 前中納言定家心

合記 志法すの 海島

志平の母の海は波舟の舟に相と高の海
元久元年の過る津気若小月

里の山にありてその月をみてはるる海
元勝の天皇は名若小障子

震も花もさきさきの妻のつらき海
具親抄片

春の月よりさきさきとさきさき海
後二位家隆

志平の母や名もさきさき海
建保三年若小百首

志平の母は花のさきさき海
洞院橋改家百首 大納言神通

志平の母は名もさきさき海
家集 西上人

志平の母は名もさきさき海
推三郎中 皇浦植 氏部 為家

志平の母は名もさきさき海
題三郎中 皇浦植 氏部 為家
法橋百首 寄家隆 述懐

源仲正

△は後醍醐天皇
夕方の月
玉皇
新千種
伏見の夜
西條の夜
赤國

△は後醍醐天皇
夕方の月
玉皇
新千種
伏見の夜
西條の夜
赤國

寺々まろの岸の角に書載らるるあまの御言
永入官年大津宮祓正の合葬云廿四の浦

後人志

あまの御言の浦に書載らるるあまの御言

中納言行平心

五藤

あまの御言の浦に書載らるるあまの御言
小治町之合海邊の月

如新法師

あまの御言の浦に書載らるるあまの御言

兼儀親隆心

枝素

あまの御言の浦に書載らるるあまの御言
大納言師範心

百二先回あまの御言

あまの御言の浦に書載らるるあまの御言

家集

人丸

あまの御言の浦に書載らるるあまの御言

付塩電

久永八年毎日一首述懐

氏部公家心

あまの御言の浦に書載らるるあまの御言

同二年毎日一首

同

あまの御言の浦に書載らるるあまの御言

元永八年十月内大台家之合真列若宗

塩電浦

兼儀親隆

海よりあそびのりらとらうらうらぬかすくまきりちの

五社百首

身大后も夫と後成

いぬをえきこたもらふまきと神子故にほちり梅毫

永久元年十一月有尔定通家との合意

漬人をこく

ふいそやとわらふうらまきりはりてをるは妻の短

正治二年百首

慈徳和尚

かきかひ妻のまきのふりふりまきりてあまの

家集名所

法眼度融

なつらんこころあまのねけは短くれらる梅の垣

百首百首

西園寺入道前大政大臣

きりかんのこころは短くはまらかともかくあまの垣

百首百首

東合法師

守のゆへ浦風さくちらまきのまきりてあまの垣

建長八年百首三の合

仔細あまの神のやうまのいりかきねのゆへ

家集極を言

源仲正

うがねらかまの短くはまらまきりてあまの垣

濱

題下

田邊福丸

かきかひまきのいりてあまの短くはまらまきりてあまの垣

月

清人志

かきかひまきのいりてあまの短くはまらまきりてあまの垣

持領中より向海濱より不肖縁首振舞ふ

志下

家集

人麿

百代 忍中一の人ねむる志は海濱の一枝も中の人から

百三 題不知

赤人

志がひかゝる藤るるのしも思ひのち海濱のこころいふ
海道宿次百首 侯部

赤儀為相心

所らりてみらるるのさへはくしとてあはれむしとて海濱のこ

七百首の中

持僧正公朝

あやかりもねにまらぬかきとてはかしの海濱の人てさる

題をく

人丸

すかたよりけしてこの海濱のこころいふはあはれむしとて

力づく

村上村 一 永文天禄三年五月資子内親王

家名の合

讀人志

りつららののさへはくしとてあはれむしとて海濱のこ

千五百番身合

法橋頭昭

むしとてあはれむしとてあはれむしとてあはれむしとて

百首の中

赤念法師

心あがりよのめらけりしとてあはれむしとてあはれむしとて

夏三市

登蓮法師

十一年のしんがりのあはれむしとてあはれむしとてあはれむしとて

題不知

讀人志

あはれむしとてあはれむしとてあはれむしとてあはれむしとて

月

月

百七 海頭系

海濱のこころいふ

赤念法師

つるらばいさくらさくら
あけはらばいさくらさくら
あけはらばいさくらさくら

六帖題演 衣笠内大臣

あけはらばいさくらさくら
あけはらばいさくらさくら
あけはらばいさくらさくら

家集がもくろく 祐奉

あけはらばいさくらさくら
あけはらばいさくらさくら
あけはらばいさくらさくら

百首正言 後人

あけはらばいさくらさくら
あけはらばいさくらさくら
あけはらばいさくらさくら

伊勢の体やあやめ 土御門院御製

あけはらばいさくらさくら
あけはらばいさくらさくら
あけはらばいさくらさくら

伊勢の体やあやめ 長業内大臣

あけはらばいさくらさくら
あけはらばいさくらさくら
あけはらばいさくらさくら

天徳二年七月八日家集久屏風
あけはらばいさくらさくら
あけはらばいさくらさくら

元補

伊勢のうしろのうしろのうしろ
あけはらばいさくらさくら
あけはらばいさくらさくら

懐中 續人不知

あけはらばいさくらさくら
あけはらばいさくらさくら
あけはらばいさくらさくら

懐中 社奉

あけはらばいさくらさくら
あけはらばいさくらさくら
あけはらばいさくらさくら

懐中 續人不知

あけはらばいさくらさくら
あけはらばいさくらさくら
あけはらばいさくらさくら

懐中 中務の文三郎

あけはらばいさくらさくら
あけはらばいさくらさくら
あけはらばいさくらさくら

懐中 常世は神

あけはらばいさくらさくら
あけはらばいさくらさくら
あけはらばいさくらさくら

△出雲島根郡十画

十とて... 松

浄忠

宝治二年百有湖月

心三信の家

あま人も... 人

題不知

讀人不知

る... 人

家集

竹房

う... 人

百有湖月

後多野行比製衣

は... 人

正安大嘗會

急仲

ま... 人

狭人

こ... 人

藤上

は... 人

久安百有

前大納言隆季

こ... 人

六帖題

克俊朝臣

た... 人

洞院格政家百有

氏部

た... 人

少くもはまゝのうらまゝとていふべきをよしの浦岡

推古天皇 つるの后 讀人不知

つるの后 つるの后 讀人不知 つるの后

家集 はくしの 忠盛

我妻いづみ はくしの 忠盛 はくしの

竹金村 はくしの

あつた はくしの 忠盛 はくしの

ら はくしの

家集 はくしの 忠盛 はくしの

たの はくしの 忠盛 はくしの

並始 はくしの

わ はくしの 忠盛 はくしの

建保三年若菜百首

兼中納言定家

わ はくしの 忠盛 はくしの

兼原

わ はくしの 忠盛 はくしの

兼原

わ はくしの 忠盛 はくしの

兼原

わ はくしの 忠盛 はくしの

月 はくしの

わ はくしの 忠盛 はくしの

兼原

千鳥と たきこの後播 持僧林源信

古来の たらぬきく たきこの後播 持僧林源信

家集 あとの後陸奥 西上人

みらのたれく あとの後陸奥 西上人

正和元年 毎百一首中 あとの後陸奥

氏教 あとの後陸奥 氏教

貞應三年 百首 月

あとの後 あとの後陸奥 氏教

千首年 月

あとの後 あとの後陸奥 氏教

あとの後 あとの後陸奥 氏教

法心

あとの後 建保五年 年号 各海 あとの後

本儀 あとの後

あとの後 あとの後陸奥 氏教

題不 あとの後

あとの後 あとの後陸奥 氏教

家集 あとの後

あとの後 あとの後陸奥 氏教

題 あとの後

あとの後 あとの後陸奥 氏教

千首年 あとの後

古来の

あとの後陸奥

あとの後陸奥

氏教

あとの後

あとの後

あとの後

あとの後

あとの後

あとの後

あとの後

あとの後

あとの後

あとの後

あとの後

あとの後

あとの後

立つるは氏すはてよまのりかあうのてはよまするも

題 のえ 千す まのりは若見

人丸 拾之入常不所忘

此のてはへし まのりは若見 玉ひらむつ 相

家子首 三の 大納言頭 胡心

ひらむつ まのりは若見 す まのりは若見 のてはの 相

建永八年百首 三の 合

大納言頭 胡心

あ まのりは若見 のては まのりは若見 の 相

千五首 三の 合 家長胡心

あ まのりは若見 のては まのりは若見 の 相

家集 三の 典侍 胡心

あ まのりは若見 のては まのりは若見 の 相

若水奇 まのりは若見 人の まのりは若見 の 相

和泉式部

あ まのりは若見 のては まのりは若見 の 相

長多院入道 三の 親王家 五首 首 三の

身大后 三の 文太 三の 母成 三の

あ まのりは若見 のては まのりは若見 の 相

同 まのりは若見 法橋 三の 頭 三の 帖

あ まのりは若見 のては まのりは若見 の 相

寛治八年八月 三の 京橋 三の 用自家 三の 合 三の 祝 三の

藤原頭 三の 総 三の 帖 三の

あ まのりは若見 のては まのりは若見 の 相

天仁三年十一月 三の 頭 三の 季 三の 家 三の 奇 三の 合 三の

後人志

まゝのまゝ丹乃と後乃あつらふあまのりらあまのり

家集

しあのまゝまゝ

大納言通具

あけら

舟としらむおけの浪乃お月とらむせしよりまゝか

久安百首

くわん

待賢門院女藝

家集後醍醐

後二位家隆

ふとまのあまのりらあまのりらあまのりらあまのり

家集

あまのり

徳宣朝臣

目吉社百首

まのまのりらあまのりらあまのりらあまのりらあまのり

懐中

題不知

くわん

後人志

あまのりらあまのりらあまのりらあまのりらあまのり

長多院入道二京親且也百首

あまのり

曼延法師

ちとらむくあまのりらあまのりらあまのりらあまのり

建長八年百首奇合

お月とらむせしよりまゝか

題不知

田舎福丸

あまのりらあまのりらあまのりらあまのりらあまのり

六帖題詠

あまのり

中務又二福余

巻九重出
其六冊
有

万六

あまのりらあまのりらあまのりらあまのりらあまのり

らりのたまきりのほはひのあまのよきまうらむる連

家集

伊勢

順

いせのふかよふまのこころとわたりてのあまのよきまうらむる

海道省次百首もほのほのと返相模

未議為相

ねのこころ海にほ若の事まきまてけはれこころあつた破

各狭國

讀人志し次

らるにむねありゆるまのほあはれにむねあは

円

有厚孝標女

ほをふまひらひのそらうらうらとあまのほの林の末

玉河
更科
自記

け哥信濃國よりむねとゆけるよ下野西野

のほはむらむらとこころにむねとてむねとてむねと

題不知 讀人志し

らるあまのそころむねとてむねとてむねとてむねと

家集

豊前

太宰大貳高遠

春のひらりとむねとてむねとてむねとてむねと

永久の年百首

仲文朝臣

いそむねとてむねとてむねとてむねと

豊前國

豊前

讀人志し

いそむねとてむねとてむねとてむねと

貞應三年七月百首

貞節のあ家

みまのれあかのむねとてむねとてむねとてむねと

家集

元真

元真

信風

非必の自歌

考

豊

豊

豊

豊

豊

豊

豊

豊

豊

豊

豊

豊

豊

豊

豊

豊

豊

目くもきとまのり一十の字のりまのりおのりおのりおのりおのりおのり

柿中影供百首赤蘭 後九条内太

かゝるのりもさのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり

天禄三年十月資子の御新しあひ合

十のりおのりおのりおのりおのりおのりおのり

後人志のり

波ちりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり

和保三年三月花山院方大僧家三合

千鳥吹のり 同

吹のりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり

家集刊先 おのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり

祐拳

秋のりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり

後 意のりおのり

秋のりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり

幸秋掃屋園京府内下布野寺内

百六律 如杉持内又掃屋 附記 右寸漏 竺金村 三平流 墨長右春

ゆまのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり

百首 民志のり家

ゆまのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり

後九条内太

ゆまのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり

古今百首 同

ゆまのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり

寛文元年九月月津内海邊松下

行人

西園寺入道實朝公御筆

津集

皇女入道格政

新集

家集志平

後二位家隆

皇御内侍藤原公成

如新法師

名所

大嘗會主基方比屏月

龜鏡

永久三年大文子令國親

美保 三才集政

丹波水上郡舟城

近江高野郡水

大嘗會主

皇御内侍

許奴義法

許奴義法

許奴義法

許奴義法

許奴義法

許奴義法

許奴義法

許奴義法

許奴義法

許奴義法

許奴義法

十首の寄木志 後多羽院法製

きりぎりすの宿のまはねのたむらひのよき

惠三の中この後 後人志

人この後 志

野この後 上巻 月

ちりぎりすのまじりのまじりのまじり

寛治二年百首 衣笠内本

なまじりあつきの後 志

志この後 後人志

ちりぎりすの神この後 志

三この後 月

千五百番奇合 前大納言兼

志この後 白書

家集のらば奇 順

かみくもあつたまをえりては妻の故

志この後 後人志

ねひりかたけさあつた宿のまじり

題志この後 月

家集 躬恒

ちりぎりすのまじりのまじり

久安二年三月 題志

源家明

源家の班台

Main handwritten text on the right page, starting with 'いふくあふ... 源家の班台'.

郡

飽等侯 紀伊

後人不知

者不志

者 雜在

千

家集

中納言家持

後二位家隆

者 雜在

家集

中納言家持

後二位家隆

者 雜在

題子云

後人不知

家集

中納言家持

後二位家隆

者 雜在

家集

中納言家持

後二位家隆

者 雜在

建長三年九月十三日...

鳥羽殿十首...

後二位家隆

九十九首...

氏部...

後人不知

清集海邊...

後人不知

後人不知

後人不知

後人不知

家集の...
小字

元補

元補の...
元補

題一...
五

三の...
五

身人部

...
五

寶治二年...
寶治二年

...
松巻

私名元...

後二位...

...
後二位

建家...
建家

後二位...

...
後二位

筑前...

題...

積人...

...
天平

天平...

中納言...

...
百十七

寶治二年...

持僧...

...
百十七

...
百十七

...
百十七

...
百十七

...
百十七

...
百十七

...
百十七

湊

家集

貫之

三
てり月をなほにれあまのふらつみきつる刀をさるる

目古社寺合

善徳和尚

るふよしくいふえさやこれくまのえをけ妻のゆあ
洞作 栲波家百首の月夜

信實抄片

波さくえなこのうきにいさくんをさるるとの又月多比

湊果湊春爛

中務の又二

このはよてつる舟がどひらへら其をれ妻のゆあ

土師門院小宰相

心舟のわたのえをさるるれ湊を遠きりゆく

五十首湖西旅

楚忽百首奇

藤原為頭

燈のこり神をよそのくもあまをさるるゆの川

平首三河月

兼謙為相

このがあまのせは乃夕かよ湊の月のおそく

題志す

後人志す

あはれ漕のあひたりはぬあとのえをさるる

河

月

ゆくろくをさるるすり波をいはまよひさるる

寶治二年百首

心三位知家

人志すあはれをさるるあはれこの湊をさるるゆのあは

高市連美人

いそぎにこはてかぬあはれこの湊をさるるゆのあは

井

長

百三

長入道格取事百有倭千鳥

信玄朝臣

鳳の妻やその父をたおすにこそはけりてはるる
弘長三年中務少輔日守百有

持僧正之朝

志ましはるるの父をたおすにこそはけりてはるる

長年

人丸

志ましはるるの父をたおすにこそはけりてはるる

志ましはるるの父をたおすにこそはけりてはるる

光明寺入道攝政家百有守若小東

大藏有七

志ましはるるの父をたおすにこそはけりてはるる

文應二年每り一箇中

氏部百有

志ましはるるの父をたおすにこそはけりてはるる

六帖題

月

志ましはるるの父をたおすにこそはけりてはるる

題

藤原親威

志ましはるるの父をたおすにこそはけりてはるる

月

藤原親威

志ましはるるの父をたおすにこそはけりてはるる

海海部

修理大支那季

志ましはるるの父をたおすにこそはけりてはるる

題

清人志

念息之考
五下并活可麻能才家能水奈力
人壽并也
受寄寄手
言痛也

一字

三

三

三

新編の地誌 前中納言 後藤 三

ゆきもくろく 舟めたりもてすけの 湊りきて出らば

承久のたのむ百首 後鳥羽院御製

波るにけれたきのみきこにいら舟のしきそころくこお魚

康平元年二月 禎子内親王の家名をよる

会おけのまゝい 精津

こすよふくはかりゆくしらぬのまろや 勢のまきなり

洞院格政中百首 忠意 赤田

隆祐 羽衣

のすあよ油のみこいのみきういさるあ のりまろ

正治二年百首 中長 後 少の候

とふすよりいゆい 花きこにきくさるよふひせのちるあ

寶治元年百首 渡月

後鳥羽院御製

月あらのい 花きこやあつらんきこく又のよきの

海浜ともあは 平政村御製

い舟のゆい 花きこはらににからりもあてよす

日吉社奇会 慈鎮和尚

たのむにまこにたすこの也さくく春の湊よあつあ年の

三折初三の 金休 後 板倉格御製

ねそろよこの湊のり又い 花きこいまもすあんならる 極風

文永二年七月 白河及て百首 赤田

光俊 御製

心の井花きこい 舟のあそも人あつて 神楽

寛治二年百首 日

寶曆二年四月

月

信集

あゝと云ふにうらなひもあつたといふもよき事と云ふは向て

弘長元年百有又四

後二位の家

此人はむじきくまの事と云ふはむじきくまの事と云ふは

三音字が中

好思

玉の事と云ふはむじきくまの事と云ふはむじきくまの事と云ふは

むじきくまの事と云ふはむじきくまの事と云ふは

續人

の事と云ふはむじきくまの事と云ふはむじきくまの事と云ふは

六帖

三位の事

おとよりの事と云ふはむじきくまの事と云ふはむじきくまの事と云ふは

日

長年内

新三

はるゝの事と云ふはむじきくまの事と云ふはむじきくまの事と云ふは

新

家集の事と云ふはむじきくまの事と云ふはむじきくまの事と云ふは

あゝと云ふにうらなひもあつたといふもよき事と云ふは向て

仁安三年余長寺合

信集

法下

月と云ふはむじきくまの事と云ふはむじきくまの事と云ふは

はるゝの事と云ふはむじきくまの事と云ふはむじきくまの事と云ふは

あゝと云ふにうらなひもあつたといふもよき事と云ふは向て

新

二見の事と云ふはむじきくまの事と云ふはむじきくまの事と云ふは

はるゝの事と云ふはむじきくまの事と云ふはむじきくまの事と云ふは

あゝと云ふにうらなひもあつたといふもよき事と云ふは向て

はるゝの事と云ふはむじきくまの事と云ふはむじきくまの事と云ふは

一、
二、
三、
四、
五、

五

四

一、
二、
三、
四、
五、

馮

題あすす

抄

赤人

五
六
七
八
九
十

寶治二の百有圓千鳥

後二位賴氏

千の百有圓合

松尾

花月百有圓

常盤井入道

洞院

後三位

なるかゝるをせむらうにばよきしきれは沖を海人

六帖題 権僧正公朝

高きと思ふをぬくもていふ人高き之位はは後成

あつてくつりゆるり

安あつては定条

時傳りたれし同くはしむるも一りし神をくん

月 月

こいしあつてはまらるる位もくはれはあつてはあつ

け等路波たえたるものよふあつてはあつて

あつてはあつてはあつてはあつてはあつて

すうらあつてはあつてはあつてはあつてはあつて

哥

野 小野光朝

あつてはあつてはあつてはあつてはあつてはあつて

百着 梅橋千鳥 小帖屋

あつてはあつてはあつてはあつてはあつてはあつて

六帖題 信実の書

あつてはあつてはあつてはあつてはあつてはあつて

六帖題 権僧正公朝

あつてはあつてはあつてはあつてはあつてはあつて

題 不気 孫人之句

あつてはあつてはあつてはあつてはあつてはあつて

月 手結く 神市

あつてはあつてはあつてはあつてはあつてはあつて

あつてはあつてはあつてはあつてはあつてはあつて

五月魚市方鹽干
五月魚市方鹽干
知多市浦余朝橋一毛奥余依野見
舟も仲よ
舟も

津集舟

中務の女二徳公

舟のあつて舟のあつて舟のあつて舟のあつて舟のあつて

葉子

又ま

平政村船長

波のよまたますきとあらしと舟のあつて舟のあつて舟のあつて

和子内新徳寺合松色子長

如願法師

舟のあつて舟のあつて舟のあつて舟のあつて舟のあつて

柿本殿供百首

秋のよまたますきとあらしと舟のあつて舟のあつて舟のあつて

百首上の肥前

舟のあつて舟のあつて舟のあつて舟のあつて舟のあつて

親惠法師

舟のあつて舟のあつて舟のあつて舟のあつて舟のあつて

実清湖長

舟のあつて舟のあつて舟のあつて舟のあつて舟のあつて

後三位の家

舟のあつて舟のあつて舟のあつて舟のあつて舟のあつて

舟のあつて舟のあつて舟のあつて舟のあつて舟のあつて

海之行

舟のあつて舟のあつて舟のあつて舟のあつて舟のあつて

舟のあつて舟のあつて舟のあつて舟のあつて舟のあつて

駿河 藤原郡 百首

舟のあつて舟のあつて舟のあつて舟のあつて舟のあつて

子...家...
 此...
 其...

家集月...
 西村上人

浄...
 音...

...
 ...

後二位頼良

...
 ...

...

建保三年

前中納言...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

非波く言井よ交あり流か建二五廿母の交存
寂持実天し位若示流傳子

後成之女

才よふくしむるの二つはまきまきくわくわく
貞意三の十七日首三

氏部二為家

あまふくしむるの二つはまきまきくわくわく
長女院入道おの家五十一首

三葉入道た大長

あまふくしむるの二つはまきまきくわくわく
中葉集

任持

那のくしむるの二つはまきまきくわくわく

題もす

後人志

恒風よけはひまらりなすおとあはたもこい
坂九条内大臣七郎三の合判

氏部二為家

あまふくしむるの二つはまきまきくわくわく
新志心と

後持の長

あまふくしむるの二つはまきまきくわくわく
高首書り合

床草は師

あまふくしむるの二つはまきまきくわくわく
六帖題か

玄後朝長

あまふくしむるの二つはまきまきくわくわく
堀河院は付白首
修短は又不事

この後いふことすすまがこころのまゝおの松原

正治二年百有 三条入道大佐

幡磨鴻才まの月日さくちとるまをあけ

百有律三 うらみみ 得九条内大佐

今あるる丸このむきつる志ありいかに存せ

光俊朝臣

ろくふえきよけちだをさくれ あつ らうらうらうら

け奇い康元二年十一月麻呂社に指す もて

ふよありはさまみじひらるる丸に

ゆりゆたぐねやまむらうら海を

てりやちくこやわかれらうらうら

題志

後人

万七 麻引 海上 瀨乃奥 休列公馬 者實竹跡 者新文和
考 交るひくうらうら か のもき は まさうら す けと 見 と 世

か

正三位知家

養正

考 張 りさ 祢 しろ う ら 丸 の た ま を せ に しろ を き する よ の ち け

月

責人

五上 住 而 見 而 来 教 用 新 方 此 説 置 代 宿 不 勝 甲
考 月 あ り さ せ る ま ち を ま じ の あ ぶ さ へ た け は ち を け の ち に け る

月

月

万七 安齋 我多志 保 悲 乃 申 多 余 於 毛 敬 言 寧 守 家 良 我 故 奉 乃 百 三 行 末 也 母
考 月 あ り さ せ る ま ち を ま じ の あ ぶ さ へ た け は ち を け の ち に け る

六帖題

正三位知家

あ さ せ る ま ち を ま じ の あ ぶ さ へ た け は ち を け の ち に け る

清集

正一条入道用白

あ さ せ る ま ち を ま じ の あ ぶ さ へ た け は ち を け の ち に け る

月守中

光俊朝臣

あ さ せ る ま ち を ま じ の あ ぶ さ へ た け は ち を け の ち に け る

秋風

わらわらうまのめをのせりしるはをさすたぬや

永久の百有 厚方 神祇伯躬付心

今乃如漕出らむは 短 まはきじは ま 備後 上可

相尋 才 六条木大内家

いまた 厚 今子 才 由 才 といふら 才 のれを 才 書 才 此 才 物 才 ころ 才 せ 才

家集 才 躬恒

あつ 才 さい 才 ら 才 う 才 ま 才 ら 才 なる 才 に 才 何 才 の 才 ひ 才 ら 才 なる 才 事

泊 寛元五年 日吉社寺合

氏部 才 乃家 才

書 才 なる 才 こと 才 抄 才 ま 才 の 才 む 才 の 才 こと 才 なる 才 事

月 信実 才 躬恒

い 才 ら 才 なる 才 こと 才 なる 才 こと 才 なる 才 こと 才 なる 才 こと 才 なる 才 こと 才

題 才 一 才 なる 才 事 才

月 才 可 是 布 氣 聚 於 吉 林 思 良 余 多 助 之 故 規 等 律 許 結 寺 麻 里 令 安 麻 律 等 事 事 事

月 才 律 許 結 寺 麻 里 令 安 麻 律 等 事 事 事

月 才 律 許 結 寺 麻 里 令 安 麻 律 等 事 事 事

六帖題 才 中務 才 の 才 み 才 二 才 徳倉 才

風 才 の 才 あ 才 ら 才 く 才 の 才 為 才 なる 才 事 才

題 才 一 才 なる 才 事 才

月 才 律 許 結 寺 麻 里 令 安 麻 律 等 事 事 事

家集 後二位家隆 才

寺のしるしに記すに家集の事ありて其の事也

清集抄

中務の又二巻

家集の事ありて其の事也

家集

好忠

家集の事ありて其の事也

十卷の合

藤原美盛

家集の事ありて其の事也

家集

前大僧正行

家集の事ありて其の事也

泊五日

後醍醐天皇

家集の事ありて其の事也

千五百番

土佐の内大臣

家集の事ありて其の事也

家集の事ありて其の事也

三

三位知家

家集の事ありて其の事也

同院抄

後九条内大臣

家集の事ありて其の事也

古帖題

持僧正

家集の事ありて其の事也

貞應三年一首

氏部

家集の事ありて其の事也

心算三年一首

心

家集の事ありて其の事也

御書に記すに
かきつらぬに
深草の事あり
用を以てし
御書に記すに

弘安三年内裏百首 齋中場

後三位行家心

みどりくたまのまらみよすもたえそくてなむむの
百首は上の所ひらけん 後九年内大臣ひらけん

かたてけりあはれいふもよころのいふのたのむらう
市申納言資実心

弘安三年のしるしふもよころのいふのたのむらう

けいとう建久九子大藏掌 今主基 市申納言資実心

屏風

六八七
長五
旋頭

大藏 今主 市申納言資実心
長五旋頭
六八七

夫木和折抄卷第六

雜部八

題

津渡水

磯岸澤

崎洞井

門道濱溫泉

津

詠泉序

人唐

題不知

円

乃浪の志之のさうまらちれかきそちを建いあはれは

円

讀人不知

我のしらぶららるあふふしん志れ大津よす慈了成

帖題

衣室内大帖

乃のゆや大津のさやあせあせとまへあふさ波らら

題不知

讀人不知

お月とものさしのねくくうんけい待連取半勢

百廿二 月

太皇太后の御成敗の御成敗の御成敗の御成敗

月 不目細砂

白の御成敗の御成敗の御成敗の御成敗

月 山上憶良

新抄 建保三年若由百首

建保三年若由百首

兼中納言定家

伊勢の御成敗の御成敗の御成敗の御成敗

月 鴨長明

公の御成敗の御成敗の御成敗の御成敗

公の御成敗の御成敗の御成敗の御成敗

題不知 讀人不知

百廿三 月

月

第三部 家十首 中

後二位家隆

後二位家隆

百廿四 月

題不知 市連軍人

百廿五 月

角丸

百廿六 月

後人志

百廿七 月

万十二
考
此書の浦のなかりと云ふ事
文作六年社百首
皇太后天皇後成
臣部之松芝
建保三年名示百首
從三位松芝
海邊百首
松芝

此海百首のなかりと云ふ事
臣部之松芝

建保三年名示百首

從三位松芝

海邊百首

松芝

此書の浦のなかりと云ふ事
皇太后天皇後成
臣部之松芝
建保三年名示百首
從三位松芝
海邊百首
松芝

万十一
考
題志
後人不知
月
人丸
清人不知
伊与温泉
題不知

此書の浦のなかりと云ふ事
皇太后天皇後成
臣部之松芝
建保三年名示百首
從三位松芝
海邊百首
松芝

万十
考
伊与温泉
題不知

此書の浦のなかりと云ふ事
皇太后天皇後成
臣部之松芝
建保三年名示百首
從三位松芝
海邊百首
松芝

万九
考
此書の浦のなかりと云ふ事
皇太后天皇後成
臣部之松芝
建保三年名示百首
從三位松芝
海邊百首
松芝

長哥

意儀の主人丸

くわんちんあまきとらしてにきこふのまをゆるむまの

什良之奈日記 後人不知

あき波の風はらとらと舟のりゆのまをゆるむまの

家集 後頼朝片

あきまやしらゆのまをゆるむまの

重之

あき海のあいにしやとらまのりゆのまをゆるむまの

磯

宗之深 讀人不知

あきまのりゆのまをゆるむまの

題不知

音清来之 奥作白玉

あきまのりゆのまをゆるむまの

同 同

あきまのりゆのまをゆるむまの

同 同

あきまのりゆのまをゆるむまの

同 同

あきまのりゆのまをゆるむまの

同 同

あきまのりゆのまをゆるむまの

同 同

あきまのりゆのまをゆるむまの

文應元年七社百有海邊

氏部為家

同じくあるいそけいのもまら舟草もやね何とぞ有り
家集たう心と心と

市氏部了雅有

きうしんまらるまきこれ松竹也舞のうれげの影
百有津三の中 後鳥羽院出製

秋三の中 藤良法

舟とむらうまらるその心まらまららとやのまら
題不知 債人不知

と心とまらるその心まらまららとやのまら
と心とまらるその心まらまららとやのまら

建保元年百有 後二位家隆

わいもらるまらるその心まらまららとやのまら
乃家百有 家長朝臣

くまらるまらるその心まらまららとやのまら
題不知 債人不知

ふまらるまらるその心まらまららとやのまら
家集片思 亡桑院宣旨

神の人をまらるその心まらまららとやのまら
家集片思 亡桑院宣旨

重之

こいりまの磯のしんまらまららとやのまら

千五百番号合 後鳥羽院宣旨

流布在先

僅馬樂 加り

相標

林葉

五葉

林葉

馬屋

藤良法

とま

ゆらん

建保三年和之所合書御筆

衆議雅純

和之所合書御筆

家集

能宣細片

流名御元

張家御

實治二年百首

實治二年百首

從二位御書

和之所合書御筆

弘安元年百首

後丸御書

和之所合書御筆

長集中

隆祐御書

和之所合書御筆

合五五五
再六

題不知

一橋式書

後人不記

和之所合書御筆

家集

伊勢

和之所合書御筆

三首首御書

中務御書

浦人のとら

家集

指中納言長方

和之所合書御筆

家集

忠見

年とるて

月

中務

和之所合書御筆

古集見つゝは爲ては... 女

徳成と

月... 債人

債人

長人... 昔之播磨

... 氏

女

惠志

家集千鳥... 指中納言長方

... 氏

...

百有... 後徳大寺

...

六百番寺合掌海惠

中文指大寺家房

...

六百番寺... 前大納言資季

...

嘉禄三年百有月

氏

浪人... 洞院指政家百有

洞院指政家百有

後二位純宗

八分

三つからいっての磯すしは月々暮を覚し久々の
文永二年十月旬川殿首首

源俊平

みりたりよいふ書も又こし今こころの心のおれ物
六百書号合寄海惠

後事指取

清乃とひらりいそ針の糸の糸の月をわしとこるそ

清集磯 鏡念方大片

月をどしる書より針と着るをせむいわけのそのの

千五百書号合 家長朝片

あつみの神いふりあつとまらゆきとゆき宿ま衣る

光基院入道二品親王とあま十首

後二位朝臣

まろ浦のいほりいそいそいそいそいそいそいそいそ

家集 忠華

とらふはの磯いそいそいそいそいそいそいそいそ

永久の年百首 仲文朝片

あつみの神いそいそいそいそいそいそいそいそ

野一らす 後人不知

とらふはの磯いそいそいそいそいそいそいそいそ

月 月

つくとあつまといそいそいそいそいそいそいそいそ

惠とる中 後惠法師

とらふはの磯いそいそいそいそいそいそいそいそ

る

玉飾

家集

忠華

相模

常陸

懐

懐

六帖

提

千五百番奇合

可成り

後鳥羽院御製

わの屋のさし世はくせあふ人を志のり神の心まき

家集

あはれ

三位季經

あまの波あふり破のさよ申すおちの神の心

侍

六帖題

信信

光俊朝臣

かめさあゆまの後のさよ申すおちの神の心

家集

信信

元志

いさらけりこの後のつと見ひらふいさま物

家集

信信

前中納言進房

あまのさし世はくせあふ人を志のり神の心

堀河院御製

中納言周信

時のさし世はくせあふ人を志のり神の心

家集

あり上人

浪のさし世はくせあふ人を志のり神の心

同

同

ひびくさし世はくせあふ人を志のり神の心

家集

孫人不知

みささあふりこのはまのそまねの波の心まき

三百五番奇合

長女院入道二女

月さし世はくせあふ人を志のり神の心

冬川国若水奇合 伊良古賀信

為忠朝臣

きんぎょにひかりの神もあまのついでにひかりの神のまゝに

月 たけなほ 清梅抄片

あまのついでにひかりの神もあまのついでにひかりの神のまゝに

月 赤梅法師

我意のついでにひかりの神もあまのついでにひかりの神のまゝに

赤梅法師 源有房

伊勢のついでにひかりの神もあまのついでにひかりの神のまゝに

家集海老月 威方胡片

伊勢のついでにひかりの神もあまのついでにひかりの神のまゝに

伊勢のついでにひかりの神もあまのついでにひかりの神のまゝに

伊勢のついでにひかりの神もあまのついでにひかりの神のまゝに

伊勢のついでにひかりの神もあまのついでにひかりの神のまゝに

伊勢のついでにひかりの神もあまのついでにひかりの神のまゝに

伊勢のついでにひかりの神もあまのついでにひかりの神のまゝに

伊勢のついでにひかりの神もあまのついでにひかりの神のまゝに

伊勢のついでにひかりの神もあまのついでにひかりの神のまゝに

伊勢のついでにひかりの神もあまのついでにひかりの神のまゝに

伊勢のついでにひかりの神もあまのついでにひかりの神のまゝに

伊勢のついでにひかりの神もあまのついでにひかりの神のまゝに

伊勢のついでにひかりの神もあまのついでにひかりの神のまゝに

伊勢のついでにひかりの神もあまのついでにひかりの神のまゝに

伊勢のついでにひかりの神もあまのついでにひかりの神のまゝに

伊勢のついでにひかりの神もあまのついでにひかりの神のまゝに

伊勢のついでにひかりの神もあまのついでにひかりの神のまゝに

伊勢のついでにひかりの神もあまのついでにひかりの神のまゝに

伊勢のついでにひかりの神もあまのついでにひかりの神のまゝに

月

月

とらりたまの御覧をいふもさうさうなる

非三申

光俊朝臣

生らん侍おまの御覧をいふもさうさうなる

題文

積人不知

侍の御覧をいふもさうさうなる

中身

用位大納

いふもさうさうなる

和元三年百有海色

入道ある政大

海路郭と

親意法師

柔門

淡河のまのりていふもさうさうなる

文永十年毎日一首中

近江名見

氏部が家

ものゝりていふもさうさうなる

月

月

及ぶいふもさうさうなる

元徳天皇院右大臣

後我大政大

唐徳の御覧をいふもさうさうなる

寶治三年百有 信實朝臣

いふもさうさうなる

題不知

積人不知

五二 八角志おしつゝおのちのそとまひりまゝにいらるゝ人念此か

月 人丸

はげの志がたかたにいらるゝおつゝ大志人今母まら

家集 かまろ信常陸 道因法師

来りすゝいその松はこゝにまゝかまろ信の月と

題不知 平淡 後人不 かえを将行ノ教物并

寺 百七歳 ありしふ廊のりきさまはげらうこころをゆへんき

百有四年の眺守 後九葉内大臣

心まをすかひまろ信の信るらうつゝ月りまをひい

光俊朝臣

故いさかしまぬしきたうまきあまのそと子まろ

はろ康元二年十一月麻呂社跡にありし

金澤の信南無所

のよきまもまらめてみまに我國の東のてまろ

あけうかり社より信の信へ七事とを

早もの信の成苑 後人ま

ころくにむすもふにまろまはげのそとまら

永八四年七月家高合女帝祀

家原忠隆

暖自よゆるまのちまらまらまらまらまら

六帖題 延元 長並内大臣

志岐の若ろとまらまらまらまらまらまら

家集後家より抄入

信賴朝臣

ふらふらかたのちまらまらまらまらまらまら

題名

後人志

呼二きさぬのあはれもよむはなはらぬくもゆへに人よきなら

家集いさゝか

廬言

ふはまらるる塩たなをたてう徳といふあそむ

家集いさゝからるるののりあそむけり

西上人

さうりすとすそり一徳の一皮あき塩もかり

家集いさゝか海となるいさゝか徳余七大夫

あめつらのひらけし母と神さしてさるるまをたたる

布坊いさゝか湖いさゝかはては作いさゝか福丸いさゝか田邊史福いさゝか

伊勢いさゝか園いさゝか約いさゝか寺いさゝか時いさゝか伊勢いさゝか園いさゝか約いさゝか寺いさゝか時いさゝか

人丸

たらたまのた中一徳は多ふも青い人の玉もるる

越中いさゝか子いさゝか下いさゝか時いさゝか中納言家持いさゝか

たこの徳このくれせけすさきさきさきさきさきさきさき

大常いさゝか會いさゝか悠いさゝか記いさゝか方いさゝか以いさゝか屏いさゝか岡いさゝか

法捕胡也

新いさゝか松いさゝか原いさゝかのいさゝか徳いさゝかのいさゝか徳いさゝかのいさゝか徳いさゝか

同いさゝか徳いさゝかのいさゝか徳いさゝかのいさゝか徳いさゝか

らるるの徳のいさゝか徳のいさゝか徳のいさゝか徳のいさゝか

長いさゝか哥いさゝかのいさゝか徳いさゝかのいさゝか徳いさゝか

行いさゝかていさゝかるいさゝかやいさゝかまいさゝかいいさゝかのいさゝか徳いさゝかのいさゝか徳いさゝか

そりいさゝかのいさゝか徳いさゝかのいさゝか徳いさゝかのいさゝか徳いさゝか

承安二年廣田社三合

しの爲 兵庫 橋本

意足法師

しんまき浦よりあつたあもあまのこつたあま

百三

野谷信法師の

あまのけしめらけの原林よりあまのこつたあま

同

後人不知

五ノ多麻津河流半等女子河野信法師の

六百番三合

法橋顯昭

五ノ多麻津河流半等女子河野信法師の

建保三年内大臣家百番後高

後二位家隆

次郎信法師の

長奇 其の信法師

後人不知

おのさだともちまのこつたあま

されるこ

有孝氏

おのさだともちまのこつたあま

実集

前中納言経光

すゑのさだともちまのこつたあま

土佐國より作高 石上礼丸

おのさだともちまのこつたあま

侍月

之後朝臣

ちよるのさだともちまのこつたあま

孫河内より作高

くまの侍 孫河二橋侍

増川院中 文上 従

波のさくらからたまたまあふりてきよき侍はねい

侍 人の見くわき

大守長親也

人の見くわき 侍はねい

侍 伊勢守

大守長親也

伊勢守 侍はねい

侍はねい

侍はねい

侍はねい

家集

侍はねい

大守長親也

侍はねい

侍はねい

侍はねい

侍はねい

軍六真馬 侍はねい

侍はねい

侍はねい

侍はねい

侍はねい

侍はねい

侍はねい

侍はねい

侍はねい

侍はねい

侍はねい

侍はねい

侍はねい

侍はねい

侍はねい

侍はねい

侍はねい

侍はねい

侍はねい

侍はねい

悠弘方以屏風小松侍湖邊

三まろの侍 橋本又近江

身太后言大夫後成

秋の日にて小松の侍と云ふこれの侍も多世の侍と云ふ
家集小松の侍 勝命法師

あふいこころ風さむ三幅さへいこまろの侍も多世の侍と云ふ

柿本新法百首 赤國 九條内大臣

あく舟を舟もててすまらとらてあひのさだをとりて

題志くは 阿礼 斎川 高市里人

いづくもあまをすく人あまのさだをとりてあまのさだをとり

市原身

あふいこころ風さむ三幅さへいこまろの侍も多世の侍と云ふ

田口益人

いづくもあまをすく人あまのさだをとりてあまのさだをとり

秋人不知

あふいこころ風さむ三幅さへいこまろの侍も多世の侍と云ふ

家長朝臣

あふいこころ風さむ三幅さへいこまろの侍も多世の侍と云ふ

長三位行能

あふいこころ風さむ三幅さへいこまろの侍も多世の侍と云ふ

指僧正公朝

あふいこころ風さむ三幅さへいこまろの侍も多世の侍と云ふ

太宰伯耆くわけり侍も多世の侍と云ふ

太宰大貳守遠

きりのまじわいせとまよる海松月とに花つばき

仙河新竹海色夜月

後京格標改

百三 五井のあけむせとてはくしよ月まき之海松の松月

標三の 人丸

百三 日一のあけむせとてはくしよ月まき之海松の松月

氏部うぢぶの家

うまやまのあけむせとてはくしよ月まき之海松の松月

家集いへあひ五言の 信実朝臣

ひらのあけむせとてはくしよ月まき之海松の松月

題い不ふ知ち

百三 びらのあけむせとてはくしよ月まき之海松の松月

家集海松いへあひ 立東院宣旨

ひらのあけむせとてはくしよ月まき之海松の松月

六帖題むくしよ 氏部うぢぶの家

ひらのあけむせとてはくしよ月まき之海松の松月

協河院法付百首あひ 中納言匡房ちゆうなごんきゆうぼう

ひらのあけむせとてはくしよ月まき之海松の松月

貞應三年石水百首あひ

氏部うぢぶの家

あけむせとてはくしよ月まき之海松の松月

渡

永観元年一条大納言の障子繪三つ

志保の故 志保後香冬川

順

ひさし舟海いあまきと志すれわたりあまきいとまきく志す

家集

徳宣朝臣

いふにらりてしこ人云はれしけのれまら志す

名承らち

務人不志

ふれしあまきと志すれわたりと志す人志す

志す

月

あまきと志すれわたりと志すれわたり志す

祐子内親の家系圖の合

月

しん舟のあまきと志すれわたりと志すれわたり志す

月

月

志すの志すれわたりと志すれわたり志す

乃忠朝臣冬川因云合志家次が海

教経

あまきと志すれわたりと志すれわたり志す

建保三年名承らち

僧正朝臣

うそあまきと志すれわたりと志すれわたり志す

博河院は村百有

修理大夫顯季

あまきと志すれわたりと志すれわたり志す

いまの月志す

後頼朝臣

うそあまきと志すれわたりと志すれわたり志す

志すの志すれわたりと志すれわたり志す

ふつふつこのはらまのりくわいふち千のいふ

遊不気 有基總

こまつつるはらまのりくわいふち千のいふ

月 武庫後 務集 後人不気 日林父礼 白乳後家平之

をばぬすもこのいふち千のいふ

後不気 百七多麻 在須成 庫純和多可介天傳 中納言家持 そけい小 所頼

少るてすらまふりくわいふち千のいふ

備中 國ごの候と云ふと英少くす

大いお言 とせあり備中

りつめいふち千のいふ

采女二年 同十二月 申す合 隔河 裏

有基威 ふせの候 務集

君とわさかめりつめいふち千のいふ

建長七年 顯也 た ち千のいふ

克俊 朝臣 この候 務集

仁まの月 この候 務集 のりつめいふち千のいふ

天長元年 八月 村家 朝臣 家持 中 國 名 示

奇合 この候 務集 後人不気

あまをきに言ふりつめいふち千のいふ

月 この候 務集

月 この候 務集 のりつめいふち千のいふ

有基 廣 この候 務集

廿日 この候 務集 のりつめいふち千のいふ

安元二年 同九月 合 志 依 月 増

今葉集 不載

今葉集 不載

今葉

この後 吉園抄

有年明

平賀のこゝろにのほろほろとまてられたるのほろほろと

短あるるうたはしり 休奉

みかいらのよそにほろほろと舟のまてのまてのまての

この後 世正 清心

おけあまのこゝろにまてのまてのまてのまてのまての

この後 世正 清心

この後 世正 清心

この後 世正 清心

この後 世正 清心

この後 世正 清心

この後 世正 清心

この後 世正 清心

この後 世正 清心

この後 世正 清心

この後 世正 清心

この後 世正 清心

この後 世正 清心

この後 世正 清心

この後 世正 清心

この後 世正 清心

この後 世正 清心

この後 世正 清心

この後 世正 清心

この後 世正 清心

秋風
ふしはあはれに秋風をよみてはくは神のまはりの風

家集 相模

そのくは神のまはりの風をよみてはくは神のまはりの風

百首三ノ中 奉念は所

あはれに神のまはりの風をよみてはくは神のまはりの風

野長崎

あはれに神のまはりの風をよみてはくは神のまはりの風

伊勢國のまはりの風をよみてはくは神のまはりの風

あはれに神のまはりの風をよみてはくは神のまはりの風

あはれに神のまはりの風をよみてはくは神のまはりの風

あはれに神のまはりの風をよみてはくは神のまはりの風

あはれに神のまはりの風をよみてはくは神のまはりの風

多良後入道二京親の家平首

あはれに神のまはりの風をよみてはくは神のまはりの風

三位季経

あはれに神のまはりの風をよみてはくは神のまはりの風

永久元年八月雲居寺三合書

源経兼朝作

あはれに神のまはりの風をよみてはくは神のまはりの風

あはれに神のまはりの風をよみてはくは神のまはりの風

あはれに神のまはりの風をよみてはくは神のまはりの風

あはれに神のまはりの風をよみてはくは神のまはりの風

あはれに神のまはりの風をよみてはくは神のまはりの風

あはれに神のまはりの風をよみてはくは神のまはりの風

伊勢國のまはりの風をよみてはくは神のまはりの風

あはれに神のまはりの風をよみてはくは神のまはりの風

わんご

家集

わんごの序

鴨長明

きよきよのまきかへんまのりふまらけりしの秋の月

岸

和暦三年住吉社に合松宿付ぬ

殿守の屋大納言

うさむしとまらけりて来まはれ松衣時つのもよまらけり

同

指大納言定家

雲のるまにけりまらけりてあまの母あまのまにけりてあまのまにけり

由來生れ死に病長お随除勅を承りて人なる

玉茶治

前中納言定家

少神のうらまらけりてまのまにけりてあまのまにけりてあまのまにけり

足結松

昔丸

思ひのまにけりてあまのまにけりてあまのまにけりてあまのまにけり

永久四年二月も相あまの合意

中位入道大納言

思ひのまにけりてあまのまにけりてあまのまにけりてあまのまにけり

寶治二年百有

後九条内大臣

思ひのまにけりてあまのまにけりてあまのまにけりてあまのまにけり

思ひのまにけり

氏部公家

思ひのまにけりてあまのまにけりてあまのまにけりてあまのまにけり

大僧正定家

思ひのまにけり

大僧正智淨

思ひのまにけり

たのむ事
おしきに
同

ひよこ松とむらぎの舟よひまじりておせせぬのなま

備前佐伯村百首 相模 隆徳法師

又月夜白く千の巻をよむる方おのれまじり心く

信法法師入道用白首百首

五月の夜おのれまじりにあはれそよの朝陽よ舟つる

家集 三のすその寺 伊勢 西行上人

ふゆのまよふ夜なくしての影をそよ月よまをぬます

信長法師入道白首百首

信吉のねむらむのまじりてのこころのこころを又まえの

五社百首 威音

舟大石を天ま備成

ふよとにんくさるるあはれんはれ湯の湯松の春

千五百番 舟合 春向 大和 信長法師百首

舟まのこれ春のこねま言す建いこころすよまをか

家集 信吉の岸 信長 西行上人

波よせらるる月をまじりてのまをかこにんく信吉の

寶治二年百首 前大納言 基長

舟よのまじりてのまをかこにんく信吉の

月 舟門はら宰相

舟よのまじりてのまをかこにんく信吉の

舟よのまじりてのまをかこにんく信吉の

舟よのまじりてのまをかこにんく信吉の

備馬集

百三 公元 ずきりし松原そのまに我ももむのそりし

車持千年

元日 ちしはちえにまよする信れきんたにふあひてあ

家集 元日

持僧心公朝

家集あひ

枯季

同 枝のまー 海前

同 花のまー 海前

同 花のまー 海前

十月大井河 紅葉乃よ人てまう可

大井河川

惠共は師

大井河川るののちちわい

見不記

は不 浪舟

ひんたりみるこの名よつていん人か路を故の

身大后を大友後成

みちをそとむ河ぬありきてみりて故うたこの

け奇い悠た方れ屏内 松契印岸

松柳 丹 威 色 心 有 知 葉 雨

例

家集冬の中

はよちりはちやうけんまそやの備のまきはよ大井を

古帖題

河多くしやふとふとみえをいかにしり申し生也
洞院橋政家百有脱分

氏部の家心

ころれろなるものもたまにすにとも月もてはちち

家百有号

浦とみさきすのすの松又うさもなとあら

家集と海家の橋より 氏部の雅有

はまのたきすのこころまゝにたてまゝにたて

目前のまゝ

あつた月とけいしと難故と事の志はちちち

推三の中

現

みこ井らちさのきすにたてまゝにたて

長屋入道橋政家百有別書

氏部の為家

幅のいこのころたをさほよろそをく風ち友の子

海道宿坊百有志す

余部の為家

このころは浪とみえの敷もたかたし井らち

家集 正三位知家

ふきねとらちちちちちちちちちちちちちち

并書と出

現

淀

家集

あつ上人

米よすしあじのしよ風こそ大井の度子氷をまぐ
十首等合寄枕志たかすののし家長朝臣

いもまきくしそこのまにすそこのまをまはれまはれ
建保他四首中大和月

いもまきくしそこのまにすそこのまをまはれまはれ
西園ち入道橋段木段大かあ三十首中き波

いもまきくしそこのまにすそこのまをまはれまはれ

月

柳よりこのまにすそこのまをまはれまはれ

家集

藤孝善物片

少つらつらむらむらめらめら氷をくれし神のおまはれ

題不知はあ集十五

債人不知

寺

馬まきくしそこのまにすそこのまをまはれまはれ
今見鶴鴨

今見鶴鴨

吉野川

六田之興柿井

月

月

いもまきくしそこのまにすそこのまをまはれまはれ

見鶴鴨

灘

延長十七年以屏風貫之

まのまをまはれまはれ

債人不知

かこのまにすそこのまにすそこのまをまはれまはれ

五社百首苦

身太居ち大ま後成

むらむらに灘のうららの名に苦らる神のうらむらむら

二条開自家にくむらむら

信頼朝片

石くは師のそとをれをすおけりまふくせぬ
也集

七ツのそりまうけり布尋やきりわら師
言羽師のそり

りまふりまふらへはそ入師つあふまふら
家集冬三才中 惠光又法師

文惠元年毎月一冊中
氏誅つる家

ふふん師のそりまふらふまふらふら
六帖題 信實胡中

又及ふらふらふらふらふらふらふら
三六

三三 月 月

心とて後まひくくしそつに
五十首三才 後二位家隆

みる坊心せきし師の林乃月
能者

雲丹らふらふらふらふらふら
けり口んらんらうの大余のし

永治大嘗会
藤のめくにく飛師音清

しうらふらふらふらふらふら
寛元元年結縁經百首

大京大支頭捕

氏部の家

奥のいさかひのついでに

見下知 風俗奇 後人不知

山 風俗奇 宝治二年百首言の腕裏

宝治二年百首言の腕裏

いさかひのついでに

三位知家

よくも水の冬もぬあはれ

建長八年百首言の腕裏 法下実伴

きれぬもなにくる いさかひのついでに 後人不知

は三判去支後胡た いさかひのついでに 後人不知

いさかひのついでに いさかひのついでに 後人不知

つまみ身と いさかひのついでに 後人不知

いさかひのついでに

見下知 いさかひのついでに 素足法師

いさかひのついでに いさかひのついでに 後人不知

又意元年 いさかひのついでに 後人不知

氏部の家

いさかひのついでに いさかひのついでに 後人不知

いさかひのついでに いさかひのついでに 後人不知

後頼朝

いさかひのついでに いさかひのついでに 後人不知

建久三年 いさかひのついでに 後人不知

前中納言定家

いさかひのついでに いさかひのついでに 後人不知

家集

素村法師

さしやまをいひまゝの御のさしやまの御

家集天皇後右小治障子

おのころの御 様集

若中納言定家

布引の御のさしやまの御のさしやまの御

千五百番二合 後二位家隆

いんげんもさしやまの御のさしやまの御

百番寺 後九条内大臣

さしやまの御のさしやまの御のさしやまの御

百番寺の氷師水 素村法師

石くしゆをいれにいらしむるまの御のさしやまの御

貞應二年六月右小百番寺

氏林の御家

秋もいささきし集のいささきし集の御

初禄二年百番 月

はのくさのなにいささきし集の御

浄集 宇治入道用白

さしやまの御のさしやまの御のさしやまの御

建保三年右小百番

順徳院の御

さしやまの御のさしやまの御のさしやまの御

布引御の竹を 入道お太政大臣

くさの御のさしやまの御のさしやまの御

布引百番の御 池是法師

は岐の本心より北にせしむるもそのまじく布引の飾

月

月

入るは次よりよき世を布引の飾めくもくはるる

月

月

布引の飾をくもくはるる日よき世を米有る世を

少くはるる世をよき世をよき世をよき世を布引の飾

布引の飾をくもくはるる日よき世を米有る世を

少くはるる世をよき世をよき世をよき世を布引の飾

月

月

布引の飾をくもくはるる日よき世を米有る世を

月

月

布引の飾をくもくはるる日よき世を米有る世を

弘長三年内裏百有餘水

後二位初家

みまのやを井るはるるあまのいとのとこの飾をくもく

月

月

弘安元年雜奇 法京定田

月

月

六帖題 とて平の飾陸奥 正三位初家

月

月

石向 六帖題 とて平の飾陸奥 正三位初家

月

月

建長七年顯物てあか午有る

大文位中納言

長安の飾をくもくはるる日よき世を米有る世を

家集

新編

純国法師

故人三々あつてもまことまの
けのいふもさうれおめてそに物
これ能く有り又河の昔何といひ
女部

題不知

後人不知

かたは尾乃さつと名柄よし昔
定長七年顯胡の家千首奇

立身 龜尾法

氏部の家

美つてい淋とけいけい儼の上
かたは尾乃さつと名柄よし昔
定長七年顯胡の家千首奇

之後胡片

三百六十首中

好忠

好忠

かたは尾乃さつと名柄よし昔
建長七年顯胡の家千首奇
つる月の新くのかたは尾乃さつと名柄よし昔

芳野離文章の時

笠金村

かたは尾乃さつと名柄よし昔
百首のつ
後鳥羽院法皇

泊船おれ袖とて
いふはよ宿とて古野川の
後朝胡片

く野河定乃井廿五年
く野河定乃井廿五年

美法國多藝のしるしに

中納言家持心

美法國の能事其のしるしに馬法其久々多藝の

大伴宿禰東人心

ひらき人のいひたる老人乃心ついでて水其をたに其の

寶治二年百首大和 後九条内大臣心

是もあはれに成りててて心其のつてててまのまの

建保二年百首其 後二位家隆心

言ふはあられ能つても月其の少きものなりはとて

浄業あられの能つて 鎌倉右大臣

みよあはれのとてしは月其をたらしとてのこもつる能

七首百首中 持僧正公朝

能のしるしにねあはれとてのまらねはとて林のゆき

正治二年百首 源仲光

まの代をたらしすれ能は年其とてとせとてあつる能

家集で季三首 太平大貳百首

るは能のしるしにねあはれとてのまらねはとて林のゆき

三百六十首中 好建

まの代をたらしすれ能は年其とてとせとてあつる能

月其のしるしにねあはれとてのまらねはとて林のゆき

その川やとせの能のまらねはとてのまらねはとて林のゆき

六帖題名 持僧正公朝

林のしるしにねあはれとてのまらねはとてのまらねはとて林のゆき

持僧正公朝 持僧正公朝

夜間成式書

中納言國信

石くはととわかれすゆき青れはるもの能くこころ

夜の能くはりて

赤井右衛門

秋よのそらにむきまをうと衣のきこりあはる

若水三清能

前大僧正隆舟

雲よあかしくけりまはる能くはるの外のきこり

家集

中務

心きく人をも得ともまよ能のそこははたやするは

文治二の貴舟三の合 成家

そのこころいよまよまよ川をゆきこころ能く

題不知

永源法師

まよ水のこころいよまよ能のい何とてこころしすの

月 二の能く能く 信康

後人不知

あまてとちよとあまよいあまよとのとる能く

集而ちよまよ

津吉周助

しよきていぬとたり能のまよとのとる能く

口集能言書

保九条内大臣

まの能くも言ひてる能くまよとる能く

家集

徳兼昌

あまよはるちよとまよ能のまよとる能く

同 三章の能く 弘伊

あの上人

身よつとるいと集のほまよとる能く

け奇家集云るちに福地まよとる能く

能くまよとるまよとる能く

飛ぶすゝもくわらうたれんそ

題不気

白鳥の歌

積人不気

三

三十一すゝれはまをすゝまのせにむまの歌を

全四の出

弘長元年百首

法興

伝九条内大臣

いぢりわたりまにらぬもまのあひの籠とるらぬ

題志す 権准 誠 兼 康

積人不気

いぢりまのぬの籠のしきあまききすゝまの歌

孫作式 十百子 御抄

家集

もろの籠 当羽

重之

いぢりまのぬの籠のしきあまききすゝまの歌

いぢりまのぬの籠のしきあまききすゝまの歌

いぢりまのぬの籠のしきあまききすゝまの歌

月

同

意上河ちらく籠の志いふいふまのちらくもあ

建長八年百首奇会

た道中為具氏

いぢりまのぬの籠のしきあまききすゝまの歌

いぢりまのぬの籠のしきあまききすゝまの歌

いぢりまのぬの籠のしきあまききすゝまの歌

いぢりまのぬの籠のしきあまききすゝまの歌

澤

六百番三々公略

後京極格政

いぢりまのぬの籠のしきあまききすゝまの歌

いぢりまのぬの籠のしきあまききすゝまの歌

五木門院丹後

源仲正

寺に... 毎百有中... 常盤木の... 建名... 毎百有中

毎百有中

氏部... 毎百有中

常盤木の... 建名... 毎百有中

日

心... 實治... 毎百有中

實治... 毎百有中

信文... 毎百有中

か... 洞... 毎百有中

光... 毎百有中

か... 洞... 毎百有中

赤

万の勝... 洞... 毎百有中

日

つ... 毎百有中

額... 毎百有中

心... 洞... 毎百有中

後... 毎百有中

心... 洞... 毎百有中

伊... 洞... 毎百有中

家... 洞... 毎百有中

家... 洞... 毎百有中

後... 洞... 毎百有中

神... 洞... 毎百有中

悠... 洞... 毎百有中

身... 洞... 毎百有中

心... 洞... 毎百有中

名まのりむけの井乃とくきいらを北村とまら風

題不知 ころきの井上終 務人不知

懐 懐 わのちらふさうてこいしとを祿とさるき井まけとまら

主基方奇丹校國酒井村

酒井道江丹校或取法

友友の朝片

明玉 明玉 けきふりさ井の水もすこいにしりも月やまらるるあ

題 山 不 山 知 山 務人不知

情 情 あす井は彩やうつるも人まのいふまは二使まら

百首奇寄若雨惠

お中納言定家

いそげらうもまけしてしすいじくあす井まけは

千五百番奇合

野文た大

約るへくはまきりやすく人まらるるあす井の

百首奇寄

中務のほに

きくくまけを交せてあす井まらるるあす井の

子め百番奇合 いふ名か山 後京格格改

もまじすあ井の木めあそこのまらるるあす井の

家集納涼と 後頼朝片

いさまわら心まけの石井つらまらるるあす井の

家集 いふ名か山 支後朝片

きくくあす井あまらるるあす井の

月 月 好忠

風まじらるるあす井あまらるるあす井の

題不知 いふ名か山 續人不知

家集 足代の井 記

鴨長明

足代の玉まゝのふれい井つむすへるかかと又むす

足代 足代 足代

後人不知

くはらかりしものそはく人ら井の毛のまよにふら

足代

この井 後集 大和

源人

かつきやうの井はあはあつえの井よこそむ

月

鴨長明

あつしよけらら此の後の集井は白玉とむす

家集

この井 後集

少内侍

屋をさうとらそつとまぬのつとむを好むの井

見れば 足代 記

山崎の常盤井及して月あき来人

いさおよ水に月あき来人

寶治元年八月十二日未若月

後醍醐院御製

足代人もをさう月あき来人

家集

この井 後集

為仲胡片

まこ井とまこ井は水ははらけり

文治六年五社百着

身大后と大后

くはらかりしものそはく人ら井の毛のまよにふら

百着百着

足代

足代のかみ井水とまこ井とまこ井とまこ井とまこ井と

水多月

醒井 後集

後集大和

くはらかりしものそはく人ら井の毛のまよにふら

あまふりしものそはく人ら井の毛のまよにふら

僅二百年
世に傳ふ
世に傳ふ
世に傳ふ
世に傳ふ

二百辛酉中

好是

同
同
同
同

同
同
同
同

同
同

同
同
同
同

温泉

相模国寄

旅人不知

故河原後集

未

百高
可之我利維
走湯山集
伊豆流湯
余余母多敬良命
伊豆

全神祇志同
る國にありたる同

徳金右大臣

流集
ちくらのゆ信乃
杖後總持

大納言
大納言

也

大納言

家集
二条右大臣

文保六年丑社百着
身大后之末後

家集

あの上人

しりしり抄中の念のこころ存せしけりとも思ふ
け三の掃磨の事写しまいらして抄中書院
申一しりしりとして後世のすゝめとす
よ同に傳はしてらるるやいよ女に書か

題不知 いふれ水

月

唐すまて波にぬれらるは建永の事なりし中書院の
建永八年百首古今 いふれ水 衣室内大旨

是も心三々なる水なりし事なりし神は後をて身た
柿が彩信百首 いふれ水 後存の家

いふれ水 いふれ水 後存の家 いふれ水

いふれ水 いふれ水 後存の家 いふれ水

いふれ水 いふれ水 後存の家 いふれ水

いふれ水 いふれ水 後存の家 いふれ水

いふれ水 いふれ水 後存の家 いふれ水

いふれ水 いふれ水 後存の家 いふれ水

いふれ水 いふれ水 後存の家 いふれ水

いふれ水 いふれ水 後存の家 いふれ水

いふれ水 いふれ水 後存の家 いふれ水

いふれ水 いふれ水 後存の家 いふれ水

いふれ水 いふれ水 後存の家 いふれ水

いふれ水 いふれ水 後存の家 いふれ水

いふれ水 いふれ水 後存の家 いふれ水

いふれ水 いふれ水 後存の家 いふれ水

いふれ水 いふれ水 後存の家 いふれ水

いふれ水 いふれ水 後存の家 いふれ水

旁後抄院

いふれ水 いふれ水 後存の家 いふれ水

いふれ水

友重基

建永八年百首古今

氏三位基定

百首古今

惠友文

いふれ水

いふれ水 いふれ水 後存の家 いふれ水

るくらの田ありまけと屋へつておぼろは又之を為す
長女院入道京朝正心平右衛門

源仲光

ふさといぬ谷にのほせ水とてきん入をさしりる

ぬのきり

ふさといぬ水

指入納言左衛門

袖のすしき井の志ありきまを如まらうとほのぼの

毎日一首中

山形酒の味

氏教の名家

のそおまきく候とてかまらるはよののり較の志

寛元三年結縁院一首

の山形酒の味

同

みきの川をまにけりてまらるはよののり較の志

の山形酒の味

後頼朝

来すすうたまたてなる候はよののり較の志
けきのかこひのけり人のほおまはるはよの
てえたるまきまはるはよののり較の志
一しけおとら

家集 月水

和泉式部

あまのよもかきとてなる候はよののり較の志

家集 月水

如覚法師

あまのよもかきとてなる候はよののり較の志

見下

貫之

あまのよもかきとてなる候はよののり較の志

貞意三途八打首

家集 月水

氏教の名家

家... 文集百首 文集百首 文集百首 文集百首

兼徳和尚

心作二年百首

立有書三令

後二位家隆

家名

入道

行路

心

年

親實法師

五月

判者

意源

百首

後二位

家隆

心

和泉式部

神

社

心作二年百首

文集百首

文集百首

文集百首

文集百首

文集百首

文集百首

文集百首

文集百首

文集百首

文集百首

文集百首

文集百首

文集百首

文集百首

文集百首

文集百首

文集百首

文集百首

文集百首

文集百首

文集百首

文集百首

文集百首

文集百首

文集百首

文集百首

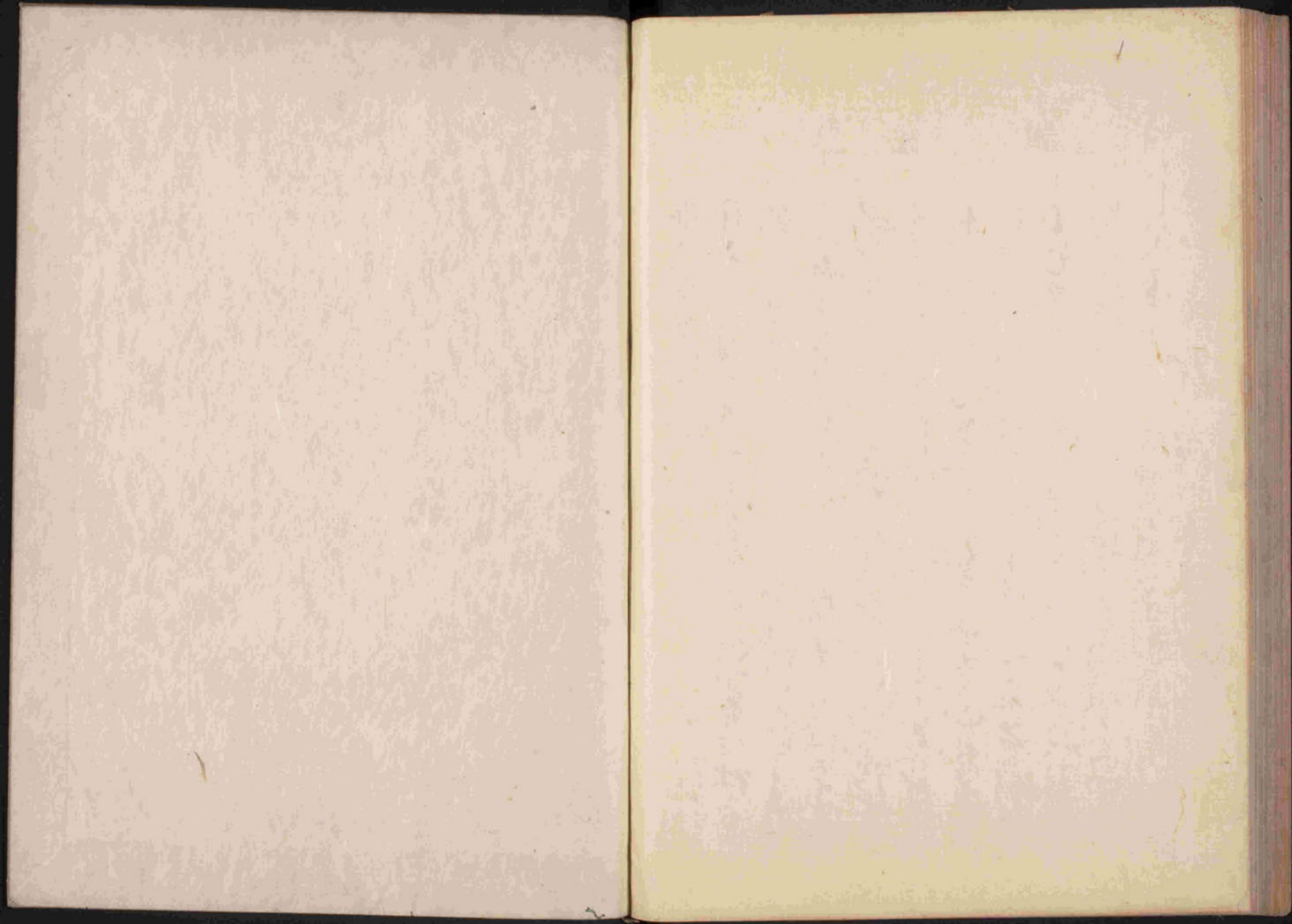
文集百首

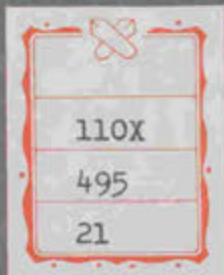
文集百首

文集百首

文集百首

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in dark ink on aged, yellowed paper. The handwriting is dense and fills most of the page. The text is written in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in dark ink on aged, yellowed paper. The handwriting is dense and fills most of the page. The text is written in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in dark ink on aged, yellowed paper. The handwriting is dense and fills most of the page.





110X
495
21